

「みやかわ小児矯正歯科での半年間の研修医生活を通して」

みなさんこんにちは!!走り続ける歯科医師の伴祐輔です!!ここでは私が研修医として半年間みやかわ小児矯正歯科でお世話になった時の話を紹介し、少しでもその良さを知ってもらえればと思います。

私はH25年4月鹿児島大学歯学部附属病院臨床研修医としての勤務をスタートしました。私は臨床研修協力型施設にて半年間研修させて頂くプログラムを選択していたので、6月から11月までみやかわ小児矯正歯科(ルタンはうす)で勤務させて頂きました。

4月研修医生活が始まっていましたが、ついこの間までは大学生そして国家試験を終えて自由な時間を謳歌していた私は、まだまだ一人の社会人、一人の歯科医師になっていませんでした。どちらかと言えば仕事したくないななんて考えている大学生みたいな人間だったと思います。毎朝出勤時刻ギリギリに大学に出勤し、終礼が終わり次第帰宅するといった生活を送っていました。そんな日々をダラダラと送りながら2カ月が経ち6月に入り、ルタンはうすでの研修がスタートしました。

みやかわ小児矯正歯科では大学病院とは違い、非常に忙しい毎日が待っていました。一日に平均で70~80名来院される患者さん、何も知らない、何の技術も持たない自分に焦りと不甲斐無さを感じる毎日でした。これまでの自分ではいけないと切に感じました。それから少しでも歯科医師として役に立てるようにと一つ一つ学んでいきました。今思い返してみると、この時から自分は少しずつ変わっていたのだと思います。ルタンはうすでは、働くすべての人々が来院する全ての子ども達の為に一生懸命働いています。自分のなりたい理想像の為に一生懸命働いています。自分の夢を語ります。僕は子どもから成長し、大人に近づいていくにつれていつの間にか一生懸命することはダサい、夢を語ることはしない人間になっていました。しかし、ルタンはうすでそんな先輩たちと一緒に過ごす中で一生懸命になっている自分がいました。また、一生懸命に患者さんに接する中で得ることができる仕事の喜びを感じていました。そして子どもの頃に医療従事者になろうとした自分の想いを思い出し、その延長にこれからの自分の夢を見出すことができるようになりました。ルタンはうすに来て、歯科医師になれたことを本当に嬉しく思い、来院される子ども達、保護者の為に一生懸命仕事をしていこうと思えるようになりました。

ルタンはうすでは、歯科医師として働いていくことの喜びの他にも様々なことを学ぶことができました。ルタンはうすでは、歯科関係以外の講師を招いたり、セミナーに参加したりと、一人の社会人、大人として身につけておくべき接遇や考え方を学ぶ機会がたくさんありました。そういったセミナーを通して色々な考え方を学ぶことで歯科医師人生はより楽しいものになっていきました。

さて、実際に私がどのような研修医生活を送っていたのか、どのように小児歯科を学んでいたのか簡単に紹介してみようと思います。ルタンはうすでは新人Dr. のために綿密な教育カリキュラムが作られています。私がルタンはうすに来て最初にしたことは一日に20名の定期検診の子ども達の口腔内の歯式チェックをすることでした。最初はなかなか積極的になれず、歯式を間違えることを恐れ、達成できない日々が続いていました。そんな時、院長に「自分からスタッフ達にアプローチして達成してみなさい。」と言われました。朝礼時にみなさんにその旨を伝えると、スタッフのみなさんは快く協力してくれました。1日20人の歯式を取りながら、抜歯やシーラントを学んでいきました。抜歯は最初に痛がられて非常に心が痛んだのを覚えています。どうしたら子ども達になるべく負荷をかけないで処置を行うことができるのか常に考え、技術の向上を目指しました。先輩Dr. が3名いたため、常に疑問に思ったことは聞く事ができ、解決していきました。

そうした処置に慣れてくるうちに子ども達の一大イベントの一つ夏休みに入りました。私が想像する以上の数の子ども達が来院しました。本当に少子化社会なの？と思えるほどです。夏休みはひたすら定期健診の子ども達を担当する傍ら、CR等のアシスタントが始まりました。最初は頭で覚えていても、なかなか次に使う器具を用意できず嫌な汗をかいたのを思い出します。しかし、数多くのアシスタントをこなすことで子ども達を如何に上手に治療に臨ませてあげるか、いわゆるビヘイビアコントロールやたくさんの処置のポイントを間近で見学することができました。一般的には、歯科医師としてある程度の練習はするけれどもすぐに実践となることの方が多くのではないのでしょうか。ルタンはうすでは自分のペースに合わせて十分に土台を作ってから実践に取り組むことができるので、なにも知らず不安の多い新人にとってしっかりと土台作りの時間があるというのは非常にありがたく貴重な現場ではないのでしょうか。

夏休みも終わり、いよいよ自分でCRを行う時がやってきました。非常に緊張していたのを覚えています。いくら術式や処置のポイントを頭に入れていても実践となるとやはり違います。今自分が行っている行為が正しいのか不安に襲われます。しかし、そこはすぐに先輩Dr. がいてくれるので安心です。ルタンはうすでは最初にする処置の場合、まずは必ずDr. 同士で処置に入ります。最優先は患者様であり、要所要所で指示をしてくれるためお互いにデメリットがないようになっています。

目の前に毎日降り掛かってくる壁や問題を一つ一つ解決する日々に没頭している間に気付けば半年間の研修期間があつという間に終了してしまいました。ルタンはうすの正規の勤務として働いている今、研修医時代(といっても一年前ですが)のことを思い出して振り返ってみると、最初の日20人の歯式をとって良かったとつくづく思います。たくさんの症例を見る事で「診る目」が鍛えられたなと思います。医療の現場において正しい処置を行うには正しい診断をすることが第一です。自信を持った診断をつけられれば、自信を持って患者様に説明し、自信を持って処置に取り組むことができます。そうした自信は雰囲気につながり、患者様との良好な信頼関係につながります。まだまだ新しい問題に直面してばかりの日々が続いていますが、研修医時代の経験があるので乗り越えていくことができます。

少子化、少子化と世間は謳いますが、逆に子ども達には健康に育てて欲しいと思ってくださる保護者の方が増えていると私は思います。そういった観点から小児歯科はまだまだ歯科医師の役割が多く残されている分野だと私は思っています。

最後に、私がルタンはうすの最も愛するところを紹介します。ルタンはうすでは人を喜ばせることが大好きな人がたくさんいます。患者様はもちろん、スタッフ同士も同じです。誰かの誕生日にはスタッフ全員でお祝いをします。私が研修期間を終え、ルタンはうすから一旦離れる際もメッセージを頂きました。そういった気遣いって小さな事かもしれませんが、働く上で非常に大切なことなのかなと思います。ルタンはうすは、一人の大人として、一人の歯科医師として非常に成長させてくれる職場だと思います。

もし、小児歯科に興味があるならば、一人の大人として成長したいなと思っているならば、一度見学に来てみてはどうでしょうか。きっと新たな世界との出会いが待っていると思います。

最後まで読んで頂いた事に感謝します。

伴 祐輔